

令和6年度 学校関係者評価報告書 (評価対象期間 令和5年度)

令和6年12月
岐阜県立森林文化アカデミー

1 学校関係者評価の実施方法及び公表について

学校関係者評価の実施にあたり、令和6年5月20日に学校関係者評価委員会を開催し、「令和5年度自己評価報告書」について、自己評価の各項目に対する評価とご提言をいただきました。多くの貴重なご意見やご指導に対して、感謝申し上げます。

その評価及び提言等について学内で検討を行い、今後の対応として整理しました。評価結果について、本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、それらの質の保証と向上に継続的に努めるとともに、ホームページ等で公表します。

2 学校関係者評価委員

委員名	摘要	区分
水野 泰孝	岐阜県高等学校農林校長会 会長	教育関係者
細川 正孝	加子母森林組合 代表理事組合長	関連業界（林業）
美谷添 里恵子	白鳥林工協業組合 代表理事	関連業界（林産業）
石橋 明世	ぎふの木に住まい協議会事務局長	関連業界（建築）
三宅 誠樹	岐阜県林政部林政課長	行政機関
伊藤 栄一	NPO 森のなりわい研究所代表	学識経験者
安江 規子	エンジニア科保護者	在校生の保護者
吉田 理恵	2017年度クリエイター科卒業	卒業生

3 評価結果

(1) 評価項目ごとの評価値

評価項目	評価値 (自己評価)	評価結果 (学校関係者評価)
1. 教育理念・目標	4	適切
2. 学校運営	4	適切
3. 教育活動	4	適切
4. 学習成果	3	適切
5. 学生支援	4	適切
6. 教育環境	3	適切
7. 学生の受入れ募集	4	適切
8. 法令等の遵守	3	適切
9. 社会貢献・地域貢献	4	適切
10. 国際交流	4	適切

※評価値：自己評価 [適切4、ほぼ適切3、やや不適切2、不適切1]

※評価結果：評価値に対する学校関係者評価委員会の評価 [適切、不適切]

(2) 評価項目ごとの意見及び対応方針

別紙のとおり

(3) 総評

学校関係者評価委員会では、10評価項目に関する自己評価の結果全てについて「適切」であると評価を受け、総合評価として「適切」であると評価をいただきました。

しかしながら、評価項目の中には、改善に努める必要がある項目も含まれていると考えています。

今回の評価でいただいたご提言やご意見等を踏まえ、定量評価ができる項目は、数値目標を示して評価をしていきます。また、早期に改善可能なものについては今年度から実施し、中長期的な取組を要する事項については、効果及び実現可能性を検討の上、対応していきます。

令和6年度学校関係者評価委員会における委員の意見それに対する本校の対応方針

評価項目	評価	委員の意見等	対応方針
(1) 教育理念・目標	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 定性的に評価しているので、数字としてどこまでやったら4「適切」または3「ほぼ適切」なのかわかりにくい。 ▪ 全体的に4「適切」が多く、努力の結果だということは評価できるが、同時に問題点も出てこないとおかしい。目標を達成したことは良いとしても、次への課題がでてきていないところは気になる。 ▪ 評価区分は4「適切」、3「ほぼ適切」、2「やや不適切」、1「不適切」の4段階。「ほぼ適切」、「やや不適切」があるためわかりにくいのではないか。良い・悪い・普通の3段階であれば評価しやすいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 評価方法は「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠して現行どおり4段階評価としますが、取組実績、課題、今後の改善方策を分かりやすく記述し、評価理由が明確になるよう努めてまいります。
(2) 学校運営	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ クリエーター科、エンジニア科が交流する機会があると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 共通科目（森林文化）、企業ガイダンス、実習等の両科合同の授業や、学校祭の運営準備等で交流の機会を設けています。両科の交流はアカデミーの特徴でもあるため、引き続き実施してまいります。
(3) 教育活動	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ JクレジットやGクレジットなど、森林環境についても授業に取り入れていくと良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 森林が持つ環境保全機能などの様々な機能やその原理については、各種授業で取り扱っているほか、クレジット制度などの国や県の新たな施策については、森林政策・森林計画を扱う授業等で取り扱ってまいります。

		<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県内の森林に関する教育資源としては、本学の他、岐阜大学にも森林関係の教員や演習林があるので、連携により相互の教育資源が活用されると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜大学とは教員間の交流があり、情報交換等を行っています。今後、岐阜大学演習林の利用を含め、連携を充実させていきます。
(4) 学習成果	3 (ほぼ適切)	<ul style="list-style-type: none"> 現場で即戦力となる可能性があるエンジニア科の定員を増やし、県内の林業・林産業の事業体に良い人材を供給して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の容量や教員の人員体制が現在の学生定員に対応したものであり、現状では定員を増やすことは困難ですが、卒業後の県内就職率を確保することにより、県内林業・林産業事業者の求める人材の育成・供給に努めてまいります。
(5) 学生支援	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 緑の就業準備給付金の3年間のうちに好きになってそのまま働き続けるパターンもある、そういうチャンスがあるのは素晴らしい。林業の関係に就きたいと思ってもらう努力は必要と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年10人を超える学生が緑の就業準備給付金を活用しており、今後も、オープンキャンパスや入学ガイダンスなどで支援制度の周知を図り、多くの学生を支援して林業従事者の確保に努めてまいります。
(6) 教育環境	3 (ほぼ適切)	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
(7) 学生の受入れ募集	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 学生を集めるためには、林業や岐阜県企業の魅力アップに磨きをかけることが大切。危ないイメージがあると親も林業に就職させたくないと思う。 コロナ禍で何もできなかった学生たちの中には何か役に立つことを求めている子が多 	<ul style="list-style-type: none"> 入学案内の冊子やオープンキャンパスを通じ、安全装備や機械化作業についてPRしています。また、森林技術開発・支援センターとも連携し、林業ICTやスマート林業など新技術の導入・普及を図ることにより林業の魅力アップに努めてまいります。 ホームページの活動報告では、活動の背景となる山側の状況や課題といった情報も併せて発信する

		いので、山側の課題を伝えていくなど、発信の仕方を転換するのも良いのでは。	など、読み手がより関心を持っていただけるよう努めてまいります。
(8) 法令等の遵守	3 (ほぼ適切)	<ul style="list-style-type: none"> 教員の働き方改革は緒についたところ。改革内容を意識づけることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務縮減や効率的な職務執行についての意識が定着し・実行されるよう取り組んでまいります。
(9) 社会貢献・地域貢献	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全の森林づくりや、生物多様性、景観など、従来の林業の視点にはなかった森林管理が重要になってきている。アカデミー、森林研究所、岐阜大学など教育研究機関からの地域への指導ニーズは高くなっていくと思うので、連携を深め地域ニーズに対応できる体制をつくっていただけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究や受託事業を通じて社会や地域の課題解決に向けた取り組みを実施しています。その他、市町村連携においても、現在7市町と連携協定を締結しており、各々の課題解決に取り組んでいるところです。今後も地域からのニーズがあれば必要に応じて他教育機関とも連携し、対応してまいります。
(10) 国際交流	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 人間をつくるという意味では国際交流も非常に大事だが、国内での交流、情報収集も大事ではないか。 ドイツとの連携に注力してきたことはとても大事なことだと思うが、いろいろな森林環境と人との関係を学ぶ、情報収集するためにも、もう少し広いエリアの国際交流ができると良いと思う。中国との連携に一步踏み出したところでもあるが、いろいろなところで連携が図れると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内での交流、情報収集は、毎年エンジニア科の授業や各専攻の先進地の視察などで行っており、今後も継続してまいります。 ドイツの他、周辺諸国で情報収集を行っているところです。ドイツや中国江西省との連携を継続しつつ、そこを起点に幅広く情報を入手してまいります。

評価項目	委員の意見等	対応方針
専門技術者教育	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域森林監理士の活用が進んでいないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 市町村と連携して活躍している方もいますが、全体としてはもう少し活用が必要だと認識しているところです。各種研修の講師や林業普及活動への指導・助言など、活用に向けた取り組みを実施してまいります。
生涯教育	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 更に地域との連携を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 引き続き市町村や地域の保育園、学校、活動団体等からの要請に対し、関係者との連携を進め対応してまいります。
産学官連携 (コンソーシアム)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 特になし 	